

SCRとは

THMS

マネージメント情報

TO

1. SCRとは

SCR (Sire Conception Rate) とは、種牛の凍結精液を使用した人工授精受胎率のことであり、簡単に言えば種牛の受胎率の事である。

近年アメリカの種牛では、SCRを載せている所が増えてきています。その理由の一つは、1986年から種牛の授精受胎率 ER CR (Estimated Relative Conception Rate) として評価していましたが生産現場で使用するには信頼度は低く、2008年からより正確な評価として改善されSCRがスタートした事である。

カテゴリー	ERCR	SCR
評価される特性	初回授精後の70日ノンリターンレート	受胎率 (Conception Rate)
評価される品種	ホルスタイン、ジャージー	ホルスタイン、ジャージー、エアシャー、ブラウンスイス、ガンジー、ミルキングショートホーン
評価に含まれる産次数	全ての産次数 (6産以上は6産とされる)	初産から5産
評価される授精回数	初回	初回から7回まで
評価される種雄牛	AI種雄牛、12歳以下	アクティブなAI種雄牛、13歳以下
最小メイトング回数	300以上の初回授精	ホルスタイン：過去4年間に300回以上授精され、その内過去1年間には100回以上の授精があるもの その他品種：ホルスタインよりは少ない授精回数
最小牛群数	無し	ホルスタイン&ジャージー：10牛群 その他の品種：上記よりは少ない
評価の表記方法	平均からの偏差 (最小1%)	平均からの偏差 (最小0.1%)
ベース	公表された種雄牛の合計：0	公表された種雄牛の合計：0
評価参加団体 (デイレコードプロセッシングセンター)	AgSource Cooperative Services, DRMS, Minnesota Dairy Herd Improvement Association	AgriTech Analytics, AgSource Cooperative Services, DRMS

2. SCRの見方

SCR評価がどのように利用されるかというのはERCR評価の利用方とさほど変わらない。専門的に言うと、70日ノンリターンレートと受胎率(Conception Rate)の違いは受胎率(Conception Rate)が確認された妊娠に基づいているということである。しかしながら、これら二つは同じ牛に由来する場合高い関連性がある。SCR2.0%の種雄牛は、歴史的に平均的なCR種雄牛を使用し平均受胎率が30%である牛群において32%の受胎率を生むことが「期待される」。ここで使われる「期待される」という言葉は、非常に多数の人工授精が行われた場合に言える。たった2回の人工授精しか行われない牛群においては、その種雄牛がもたらす受胎率は0か50%かもしくは100%である。

種牛によって少しの差ではありますが受胎率に影響がある事が、近年だんだんと正確に評価されています。1頭の牛に授精するには影響はあまりないですが100頭~200頭に授精すると大きな差になります。SCRは、どの部位の評価よりも信頼度が一番早く上がる評価であるので是非SCRを利用していただきたいです。

またSCRを載せているのは、アメリカの種牛であり国内ではまだ評価されていません。現在、日本語版のブルブックに表記されているのはCRIのみであり、ABS、セレクトサイアーは英語版に載っています。